

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 92

2015年8月18日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、塩尻 信義 先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「イノベーション・ジャパン2015」に出展します
2. 「シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会」のご案内
(静岡県食品技術研究会第241回例会・静岡大学食品・生物産業創出拠点第39回研究会)
3. 第10回 電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松
「IoT時代に向けたセンサー活用術／センサー応用システムのアナログ回路設計技術」
開催のご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更していただきます。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. 「イノベーション・ジャパン2015」に出展します

大学や公的機関等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び、実用化に向けた産学連携のマッチング支援を実施することを目的としてJST、NEDOが主催する、「イノベーション・ジャパン2015」に本学から7名の研究者が出展いたします。

ご興味、ご関心のある方は是非本学の各ブースへお立ち寄りください。

【日 時】2015年8月27日（木）9：30～17：30
2015年8月28日（金）10：00～17：00

【会 場】東京ビッグサイト（東京国際展示場）
西展示棟 西1ホール

【静岡大学の出展内容】

- 「磁気浮上ベアリングレス技術を用いた低コスト・高寿命・高機能デバイスの開発」
出展者：学術院工学領域 機械工学系列 准教授 朝間 淳一
ブース番号：M-29
- 「アンテナ、高周波部品の自動設計」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 教授 桑原 義彦
ブース番号：I-22
【ショートプレゼン】8月28日（金）13：45～ A会場
- 「屋外・遠距離で“動く”ターゲットの座標を高精度に計測できる技術」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 准教授 橋本 岳
ブース番号：I-23
【ショートプレゼン】8月28日（金）13：40～ A会場
- 「クラウドを活用した新しい情報発信 大学テレビジョンの導入支援」
出展者：情報基盤センター 副センター長／准教授 長谷川 孝博

ブース番号：I-24

【ショートプレゼン】8月28日（金）13：35～ A会場

- 「プラズマ高機能化磁気ナノ微粒子を用いた高感度ウイルス検出システム」
出展者：創造科学技術大学院 ナノビジョン工学専攻 教授 永津 雅章
ブース番号：L-38
【ショートプレゼン】8月28日（金）14：10～ B会場

- 「食物や人体が対象の非接触非破壊二次元硬さ分布測定器」
出展者：学術院工学領域 電気電子工学系列 教授 犬塚 博
ブース番号：L-39

- 「超音波を用いた新たな粒子分級技術の開発」
出展者：グリーン科学技術研究所 グリーンエネルギー研究部門 教授 齋藤 隆
之
ブース番号：N-19
【ショートプレゼン】8月27日（木）11：00～ A会場

【入場料】 無料

【詳細】 <http://www.ij2015.com/>

【静岡大学の問合先】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構
TEL 053-478-1718
E-mail [invjp11\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:invjp11[at]cjr.shizuoka.ac.jp)

2. 「シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会」のご案内
(静岡県食品技術研究会第241回例会・静岡大学食品・生物産業創出拠点第39回研究会)

～～グローバル化の中の食品・生物産業と機能性表示食品～～

【開催日】2015年9月18日（金）研究発表会10：00～17：05

【会場】ホテルプリヴェ静岡ステーション

静岡市駿河区南町8-5 TEL054-281-7300

研究発表会（3F）、ショートプレゼンテーション、ポスターセッション

（5F）

【詳細】

10：00～10：10 主催者挨拶

- ・静岡県食品技術研究会会長
- ・静岡大学・食品・生物産業創出拠点代表幹事
- ・静岡県中小企業団体中央会及び静岡大学博士キャリア開発支援センター代表

10：10～11：10 基調講演「茶の健康機能と茶産業の将来」
茶研究・原事務所(株)代表取締役社長 原 征彦 氏

11：10～11：30 研究発表①「大腸H2生成を介した食物繊維の新機能」
静岡大学 総合科学技術研究科 農学専攻 応用生物化学領域 教授 西村直道 氏

11：30～11：50 企業開発事例紹介①「静岡の特産品を使ったビール造り」
アオイブリューイング 代表 満藤直樹 氏

11：50～13：30 ショートプレゼンテーション・昼休憩

しずだい産学連携メールマガジンVol192

13:30~14:30 ポスターセッション (会場5F)

14:30~14:50 研究発表② 「緑茶によるストレスの軽減」
静岡県立大学 薬学部 統合生理学分野 准教授 海野けい子 氏

14:50~15:10 企業開発事例紹介② 「静岡大学ブランド日本酒「静大育ち」」
(株)大村屋酒造場 杜氏 日比野 哲 氏

15:10~15:30 研究発表③ 「食品の衛生管理におけるHACCPの導入に向けて」
東海大学 海洋学部 水産学科 食品科学専攻 教授 山本茂貴 氏

15:30~15:40 休憩

15:40~16:00 研究発表④ 「ミカン色素β-クリプトキサンチンの健康機能性」
農研機構果樹研究所 かき研究領域 流通利用・機能性・栽培生理研究ユニット
ユニット長 杉浦 実 氏

16:00~17:00 企業開発事例紹介

③ 「機能性表示食品制度 業界動向と三生医薬の取組み」
三生医薬(株) 研究開発部 企画開発課 学術係 建穂一樹 氏

④ 「ミラノ万博へのKatsuobushi発信プロジェクトについて」
(株)新丸正 代表取締役社長 久野徳也 氏

⑤ 「史上初ノンアルコール特保「サッポロプラス」の開発」
サッポロビール(株) 新価値開発部 坂下聡一 氏

17:00~17:05 閉会の挨拶
静岡県工業技術研究所所長 又は研究調整監

【交流会】 (5F) 17:15~19:00
※ポスター表彰式

【参加費】 セミナー 無料
交流会 会員:3,000円 会員外:5,000円

【主催】 静岡大学食品・生物産業創出拠点、静岡県食品技術研究会
静岡大学博士キャリア開発支援センター、静岡県中小企業団体中央会
静岡県工業技術研究所・静岡県食品産業協議会・公益財団法人 静岡県産業振

興財団

【後援】 静岡県立大学・東海大学海洋学部・静岡大学グリーン科学技術研究所、
静岡大学創造科学技術大学院

【問い合わせ先】

静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 8 3 6
TEL : 054-238-4631 FAX:054-238-3018
E-mail: oshirao[at]ipc.shizuoka.ac.jp

3. 第10回 電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松
「IoT時代に向けたセンサー活用術/センサー応用システムのアナログ回路設計技術」
開催のご案内

公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構では、恒例の電子回路設計者向け技術
セミナーをアクティビティ浜松で開催致します。今回は『IoT時代に向けたセンサー活用
ページ(3)

しずだい産学連携メールマガジンVol192

術/センサー応用システムのアナログ回路設計技術』と題し開催致します。
センサーは自動車、産業用ロボット、農業関連から家電及び最近話題のドローンまで幅広く採用されており、IoT時代に不可欠な“機能”です。
本セミナーでは、センサー応用システムの概要、センサー回路設計に不可欠なアナログ回路設計としてオペアンプ、ADコンバーター、ノイズ対策等の基礎知識を学んで頂き、さらにセンサーの応用回路例を、ルネサスエレクトロニクス(株)のSmart Analogを使い設計回路例を紹介致します。
当日は11:00よりルネサスエレクトロニクスのSmart Analogのデモンストレーション、パネル展示を行いますので、時間に都合のつく方は早目にお越し頂き、是非デモンストレーション、パネルをご覧ください。
尚、定員になり次第、申込みを締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込み下さい。

- 【日時】2015年 9月10日(木) 13:00~17:00
(受付開始11:00~デモンストレーション、パネル展示を行います。)
- 【会場】アクトシティ浜松 研修交流センター 62研修交流室
- 【対象】回路設計エンジニア、システム設計エンジニアを含め、広く電子回路・基板設計者
- 【参加】無料(受講後のアンケート記入・提出が条件となります)
- 【定員】50名
(誠に勝手ながら一部署当たり5名様までの登録とさせていただきます。)
- 【講師】コンサルタント(元ルネサスエレクトロニクス(株))
ルネサスエレクトロニクス(株)Smart Analog担当
- 【主催】公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構
- 【共催】静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター
浜松商工会議所
- 【問合先】公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構
担当:丸橋、本郷 TEL:053-471-0777

▼詳細とお申込はこちらのHPをご覧ください。▼
<http://www.haiopro.jp/news/?p=738>

《 みんなのコラム -86- 》

記:理学部生物科学科 教授 塩尻 信義

私のメインの研究テーマは、マウスやラットの「肝臓の発生・分化・再生」で、これは大学院時代より継続して行っているため、数えると35年以上も肝臓に関わってきたことになる。そして胎生期肝臓の構造解析と細胞系譜の解明では、世界に先駆けた成果を得た。

しかし、大学院に入り研究テーマを指導教員から与えられたとき、マウス胎児の肝臓はかなり微小、また造血器官であるため、組織構築が極めて複雑となり、研究が敬遠されていた。正直、今思えば、私の大学院時代にマウスの肝臓発生の研究をしているヒトは、世界で私以外にはいなかったのではないかと想像する。

学んだ大学院が理学系研究科、勤務先がずっと理学部なので、研究内容は基礎研究中心である。そのため、工学部や農学部の方に比べると産学連携の話が多数あるわけではない。しかし、1990年代後半より、がらっと風向きが変わり、胎児肝臓の細胞を創薬や再生医療などに使えないかと相談が時折来るようになった。発生期の細胞は分化・組織形成能力が著しく、また新規の活性物質を産生しているので、その目のつけどころは企業の方と基礎研究者で大きく異なると感じた。

相談が私自身が参加する具体的なプロジェクトに発展することはなかったものの、これらの経験は私自身の研究の応用を推察する上で、いいヒントとなった。

さらに、2010年前後に、幹細胞から肝臓を作り出す産学連携プロジェクトに2、3参加したが、目標設定が明確で、それに合う成果がまず求められ、意識をリセットさせられた。また、意味ある特許の取得こそが重要であり、数は問題ではないことも印象的であった。

これらのプロジェクトでは、本当の肝臓を作りあげるには、肝臓発生を知った専門家が入る必要があるとのことで加わったが、企業によって懐の深い企業もあると思った。また、企業によっては、そのイノベーションに基礎研究が貢献できるニーズが必ずあると思う。

最近、純粋の基礎研究として、色々な動物の肝臓構築のしくみを調べはじめている。ウナギの仲間の肝臓が他の魚の肝臓に比べ特異であることがわかったので、それではニホンウナギはどうかと、ウナギの会社に連絡し、サンプルの提供をお願いしたところ、ニホンウナギに加え、他のウナギや稚魚サンプルをご提供いただいた。また、ウナギ養殖場を見学させていただき、ウナギ養殖の問題点なども教えていただいた。

face-to-faceで話をすることは、基礎研究そのものに直接関係しなくとも、何かコラボできそうな意識もめばえるように思われた。その意味で、基礎とか応用とかあまり意識せずactiveに行動し、地の利を活かしながら研究を行うのも結構いいことがあると感じている。

<< 編集後記 >>

～『再生可能エネルギー世界展示会2015』出展を終えて～
イノベーション社会連携推進機構 特任技術職員 奥之山隆治

先日7月29日～31日の3日間、東京ビッグサイトにて「第10回再生可能エネルギー世界展示会2015」が行われ出展しました。太陽光・太陽熱のブースでは、大手開発企業を中心としたとても華やかな展示が多く、社会に注目されている分野だと実感します。来場者数は公式発表の速報値では、3日間で4万5千人程で、暑さの厳しい中、多くの再生エネルギー関係者が集った展示会でした。本学は、他大学の研究室の成果と共に、アカデミックギャラリーにて出展しました。

展示内容は、科学技術振興機構 社会技術研究開発センターの公募事業の実装として、農学部附属地域フィールド科学教育センター（藤枝フィールド）で実施していた「環境負荷の低減に資する持続的農業生産システムの実装」の成果発表です。

工学部、農学部、人文社会科学部の個々の研究成果を組み合わせ、社会の課題解決に向けた実証試験を推進してきました。工学部の研究成果としては、バイオマス燃料化や太陽エネルギー利活用による省エネルギー技術、農学部からは、極少量培地によるトマト養液栽培技術、人文社会科学部からは環境評価と経済計量モデルの研究を社会ニーズに適合できるシステムとして設計し、その実装成果を報告してきました。

アカデミックギャラリーにも多くの企業や行政機関の方々が立ち寄られ、本学の実装成果に基づくビジネスモデルの確立性、採算性に関する質問や、バイオマス燃料化技術、トマト栽培技術など個々の研究成果についての質問も多く、環境負荷の低減と併せ、新ビジネス構築の実現に向けた熱意が伝わってきました。当初、用意した配布資料数が不足し、サポートセンターで追加印刷する程でした。

展示会を通じて感じた事は、大学研究室または研究者単位の研究成果活用か

